

製品名: シナプシン I ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18491**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	SYN1
別名	SYN1; Synapsin-1; Brain protein 4.1; Synapsin I
遺伝子 ID	6853.0
SwissProt ID	P17600
免疫原	抗血清はヒトシナプシン 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 26-75

背景

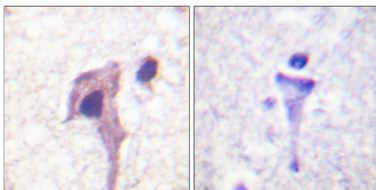
この遺伝子はシナプシン遺伝子ファミリーのメンバーです。シナプシンは、シナプス小胞の細胞質表面に結合する神経リン酸化タンパク質をコードします。ファミリーメンバーは共通のタンパク質ドメインを特徴とし、シナプス形成および神経伝達物質放出の調節

に参与していることから、いくつかの神経精神疾患における潜在的な役割を示唆しています。シナプシンファミリーのこのメンバーは、軸索形成およびシナプス形成の調節に役割を果たします。コードされているタンパク質は、いくつかの異なるタンパク質キナーゼの基質として機能し、リン酸化は神経終末におけるこのタンパク質の調節に機能している可能性があります。この遺伝子の変異は、レット症候群などの原発性神経変性を伴う X連鎖疾患に関連している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: SYN1 の欠陥は、X連鎖性てんかんの原因であり、様々な学習障害および行動障害を伴う[MIM:300491]。XELBD は、てんかん、学習障害、大頭症、攻撃行動が様々な組み合わせで現れるのが特徴です。機能: シナプス小胞を覆い、細胞骨格に結合し、神経伝達物質の放出を調節する神経リンタンパク質。NOS1 および CAPON タンパク質と形成される複合体は、シナプス前レベルにおける特定の一酸化窒素機能に必須です。PTM: 少なくとも4つの異なるタンパク質キナーゼの基質。リン酸化は神経終末におけるシナプシン 1 の調節に役割を果たしていると考えられます。DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR によるものと思われる。類似性: シナプシンファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。CAPON と相互作用する。NOS1 と三量体複合体を形成する。アイソフォーム 1b は PRNP と相互作用する。、

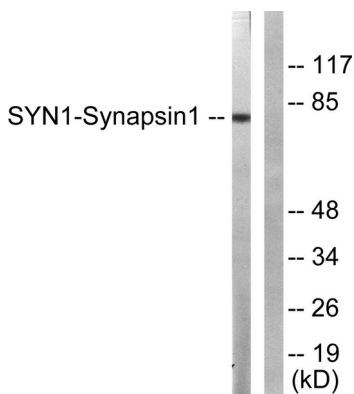
研究分野

神経科学

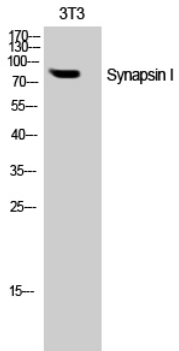
画像データ



シナプシン 1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ノコダゾール 1 μ g/ml で 16 時間処理した NIH/3T3 細胞のライセートを Synapsin1 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



シナプシンIポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析